



学校だより 第15号

心豊かで 確かな学力をもち 心身ともに健やかな子どもの育成
令和7年10月20日 津市立榊原小学校

令和7年度「全国学力・学習状況調査」「第1回みえスタディ・チェック」の結果について

4月17日(木)・24日(木)に、6年生が「全国学力・学習状況調査」(学力調査は5名・学習状況調査は6名)を、4月22日(火)に、4年生(3名)と5年生(2名)がタブレットを使って「第1回みえスタディ・チェック」を実施しました。

国や県から各学年の採点・集計結果等が発表されましたので、本校児童との比較や各教科等の分析結果をお知らせします。本校は児童数が少ないため、個別の「強み」や「弱み」を掌握し、指導に生かすことにより重点を置きます。正答率の比較は、本校の「強み(良いところ)」と「弱み(課題があるところ)」の把握のための参考にし、「強み」と考えられる部分は実践を継続し、「弱み」と考えられる部分の力を伸ばすよう取り組みます。なお、これらの調査から読み取れることは、子どもたちの学力や生活の一部分であり、学校の教育活動の一側面です。保護者の皆様には、お子様の得意なことや努力を認めながら、今後の学習や生活の励みとなるようなお声かけ、読書習慣・生活習慣の改善へのご協力をお願いします。

4・5年生 みえスタディ・チェック

国語：4年生は 三重県の平均(58.7%)を 大きく 上回り、5年生は 三重県平均(55.2%)を 下回りました。

算数：4年生は 三重県の平均(60.9%)を 大きく 上回り、5年生は 三重県平均(55.8%)を 下回りました。

理科：5年生は 三重県の平均(55.1%)を 上回っています。(5年生のみ実施)

《本校の強み(良いところ)》

国語：「知識及び技能」の内容で、漢字の読み・書き、ローマ字の読みは正答率が高い。

算数：四則計算は正しくできる。

理科：生命分野(昆虫)・エネルギー分野(もののあたたまり方)は、ほとんど正答できた。目の前で見えるものや現象はよくわかる。

☆ いずれの教科も、無解答の欄はなし

《本校の弱み(課題があるところ)》

国語：長い文章を読むこと、条件に合わせて書く、わかりやすく書くことに苦手意識が強い。

算数：グラフや表を読み取り、わかることを文章や式で説明することが難しい。

理科：地球分野(天気と気温の変化)は県平均とともに正答率が低い。グラフや表からわかることを探すことが難しい。

6年生 全国学力・学習状況調査

国語：全国の平均(66.8%)を 上回っています。

算数：全国の平均(58%)を 大きく 上回っています。

理科：全国の平均(57.1%)を 上回っています。



《本校の強み(良いところ)》

国語：書くことに強みが見られる。「条件に合わせて書く」問題は、2問ともすべて全員正答。自分の考えも追加しながら記述できた。

算数：全体的によくできていた。グラフと表から見てわかることを、必要な数や言葉を使ってわかりやすく文章で説明ができる。

理科：書かれた結果から見出される問題について自分の考えを書く問題、地球温暖化等の自然現象について起こる課題を水温や体積の変化の基礎知識を根拠に考える設問に全員正答できた。

《本校の弱み(課題があるところ)》

国語：「長い文を読んで、短い言葉で要約する」「書かれていることを図式化して簡単にまとめる」問題の正答率が低い。回答するために長い文章から必要な情報を探するのに時間がかかる。

算数：長い文章で書かれた説明や問題の読み取りに時間がかかる。図形の面積を求めるために必要な言葉を使って説明する記述が難しい。

理科：説明の多い文章の読み取りに時間がかかる。過去の学習内容を忘れやすい。[3年] 電気を通すもの・磁石にくっつくもの・電流の回路

《6年生 6人が 回答した 児童質問紙の結果（抜粋）》

「当てはまる」「どちらかといえば当てはまる」等、よい傾向 の 合計の全国の平均回答率との比較

◎よい傾向 (◎ は100%) △課題がある傾向

自分には良いところがありますか	◎
人が困っているときは、進んで助けていますか	◎
いじめはどんな理由があってもいけないことだと思いますか	◎
人の役に立つ人になりたいと思いますか	◎
学校に行くのは楽しいと思いますか	◎
自分と違う意見について考えるのは楽しいと思いますか	◎
普段の生活の中で、幸せな気持ちになることはどれくらいありますか	◎
地域や社会をよくするために何かしてみたいと思いますか	◎
5年生までの学習の中で、PC・タブレットなどのICT機器を活用することについて、楽しみながら学習することができていますか	◎
学級の友達との間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、新たな考え方に気づいたりすることができていますか	◎
授業や学校生活では、友だちや周りの人の考えを大切にして、お互いに協力しながら課題の解決に取り組んでいますか	◎
普段、1日当たりどれくらいの時間、勉強をしますか	◎
土日や学校が休みの日等、1日当たりどれくらいの時間、勉強しますか	◎
読書は好きですか	(よい傾向 2名) △
学校の授業以外に、普段1日当たりどれくらいの時間読書をしますか	(10分未満 4人) △

【考察と今後の取組】

タブレットを使った学習は、ほとんど毎日、多くの教科で行っています。わからないことを調べたり、自分の考えをまとめ、相手にわかりやすくなるようにと工夫した発表の仕方を考えてプレゼンテーションしたりしています。しかし、ICT機器を活用することについての児童質問紙での回答は、「自分のペースで理解しながら学習を進めることができる」「友達と考えを共有したり比べたりしやすくなる」等について、「あまりできていない」「できていない」と感じている子が半数近くいることがわかりました。学校としては、「十分にできている」と捉えて見守っていましたが、児童にとっては十分ではなかったという事実を真摯に受け止めました。ICT活用以外にも、日々努力している子どもたちに「できているよ」「それでいいよ」と認め、**達成感や自己肯定感**を持たせられるよう、今後さらに働きかけていきます。



学習面では、「**わからないから教えて**」が**言い合える学級づくり**の中で、タブレット等を活用しながら自分の考えをまとめたり わかりやすく表現したりすることで、相手に伝わりやすく、自分自身の理解が深まるという成果とともに「書く力」「表現する力」が身についてきたと考えます。引き続き、自分に合った学習方法を見つけ、子どもが主体となって学び合う授業づくりを意識し、苦手意識が強い内容や課題の見られた領域等については、適宜 授業の中でも内容に触れながら、学力の定着を目指します。

児童質問紙の結果からは、テストの点数でのみでは測ることができない人の心や社会性に関する力「非認知能力」が継続的に育っていることが分かります。これは、保護者・地域の皆様が学校と連携・協働して子どもたちの成長を支えていただいていることが大きく影響していると考えます。また、これまでの仲間づくりや縦割り活動等の異学年交流、児童会活動、あたたかな地域の方々との多様な交流学習の成果であると捉え、継続します。さらに、「非認知能力」の基礎を培う幼児期の教育・保育の学びを小学校の学びにつなぐ「架け橋プログラム」の取組も進めます。

学校生活がさらに楽しく充実したものとなるように、授業や行事等すべての教育活動を通して、**失敗も「学びのチャンス」**と捉え、成功体験へつなげられるようサポートしていきます。互いに認め合い、目標達成に向かって **最後まであきらめずに安心してチャレンジ・応援**できるクラスを子どもたち自身でつくっていきけるよう支援してまいります。

